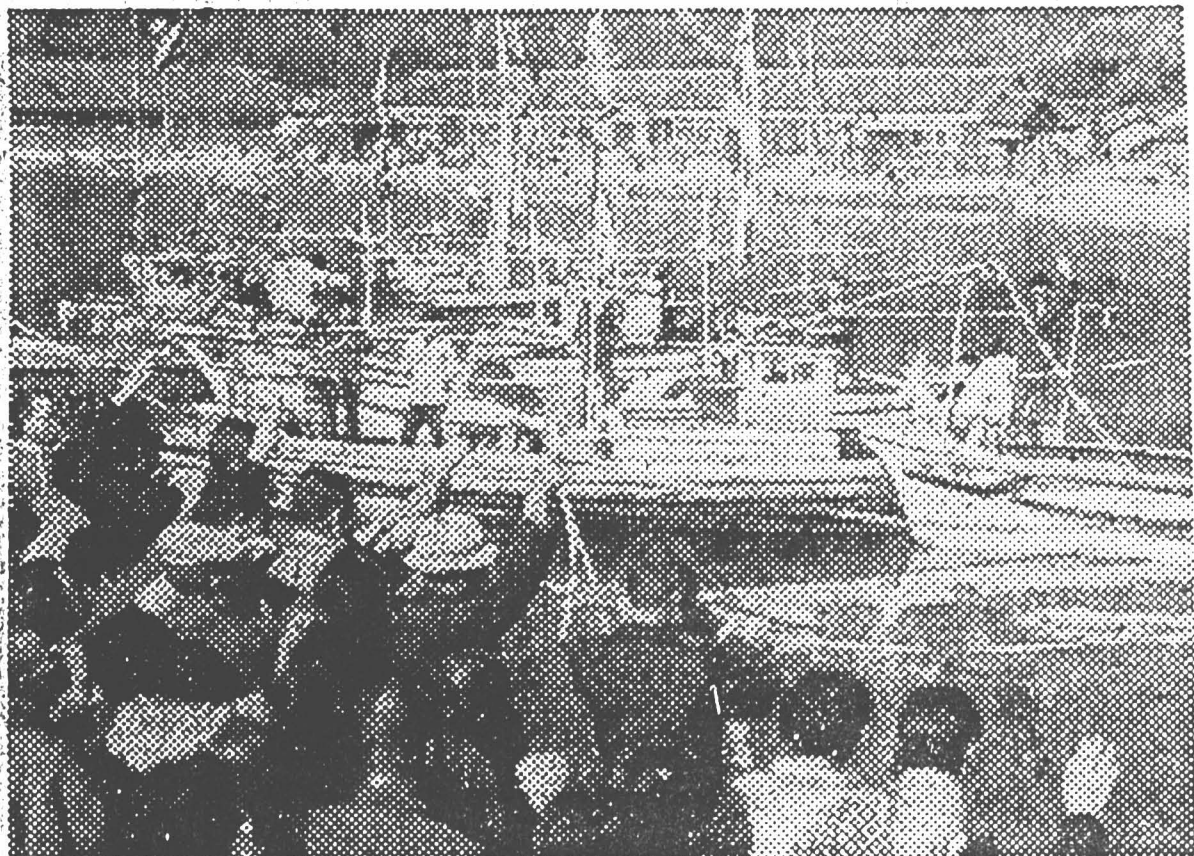




対馬海域へ船出する葦北町船団(計石港にて)

ぞくぞく対馬海へ

イカ漁に転じた葦北漁民

水俣病禍で漁業不振の葦北郡葦北町漁民は不知火海での操業に見切りをつけ三十日対馬海域の寒イカ漁場へ船出した。

一行は金森県水産試験場技師をリーダーに船団長山口藤十さんほか二十六人が九隻の発動機船(いずれも二、三ト)に分乗して来春の二月いっぱいまで対馬でイカ漁に従事する。出漁にあたっては近海漁業転換資金として町から一隻に五万円、計四千五万円を融資して漁場開拓者を激励した。

この朝九時から同町計石港で吉田町長、竹崎漁協長、田中県議、齋田県葦北事務所長、地元民多数が集まり神事による壮行会を開き午前十時町民の期待をになって対馬に向った。

なお葦北沿岸から対馬漁場へ転業したのは、さる十一月九日の津奈木村漁民の第一陣からこんどで四度目で、計十七隻が対馬で操業にあたっているが、成績もよいので、こんごとしと出漁するものと関係者はみている。